



「第46回卒業証書授与式 式辞」

瀬戸市立水野中学校長 松岡 辰也

冬の寒さも和らぎ、やわらかな日差しと穏やかな風に包まれて、草木が芽吹く季節となりました。春の訪れを感じる今日の良き日に、瀬戸市副市長 大森雅之様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、水野中学校第46回卒業証書授与式を挙げていきますことは、この上ない喜びであります。心より感謝を申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、立派に成長して、中学校を巣立つお子様の姿に、感慨もひとしおのことと拝察いたします。お子様のご卒業、誠にありがとうございます。

ただいま、多くの方々に見守られながら卒業証書を受け取った201名の皆さん、卒業おめでとうございます。3年間、本校の校訓「立志・礼節・鍛練」を胸に、たゆまぬ精進を続け、今日という日を迎えました。

思い返せば3年前、ようやくコロナ禍のトンネルを抜け、期待と不安を胸に本校に入学した皆さんは、新しい仲間や先生との出会いを存分に楽しんでいました。教室にあふれたその笑顔は、私たち教職員にとっても大きな活力となりました。

学校生活にも慣れた2年次、天気を心配して向かった伊良湖での野外活動。青空の下で仲間と協力して作ったカレーライス、火を囲んで楽しんだキャンプファイヤー、お腹いっぱいになるまで食べたビュッフェバイキング、そして友情を深めた3日間。時間やルールを守り、自律して行動する皆さんの姿に、確かな成長を感じた瞬間でもありました。

そして、中学校生活の最後となった3年次。皆さんの記憶にも新しい関西への修学旅行。55年ぶりに開催された「大阪・関西万博」では、会場にそびえ立つ世界最大級の木造建築「大屋根リング」が、真っ先に目に飛び込んできました。一本一本の木材が、複雑かつ強固に組み合わさり、1周2キロにも及ぶ巨大なリングを作り出していました。私は、あの大屋根リングの姿こそ、皆さんが水野中学校で過ごしてきた3年間そのものであると感じます。

入学当初、真新しい制服に身を包んだ、豊かな個性を持つ一人ひとは、いわば大屋根リングの一本一本の木材のような存在でした。それが、日々の学校生活や行事、部活動を通じて関わり合う中で、力を合わせ、互いに支え合い、少しずつ結びつきを深め、壮大なものを作り上げてきました。誰かが立ち止まれば支え、誰かが挑戦すればエールを送る。そうして積み重ねられた絆「水中魂」が、今、ここにいる201名という、何ものにも代えがたい「学年という名の大きなリング」を完成させたのです。一人では成し得ないことも、水中魂で結びついた絆があれば、どんな困難にも折れない強固なリングとなることを、皆さんは自らの姿で証明してくれました。

さらに、万博のパビリオンで目にした未来社会。AIロボットや最新の医療技術は、「世界をより良くしたい」「大切な人の命を救いたい」という、人類の純粋な「願い」と「情熱」の結晶でした。これからの未来を生きる皆さんに、今、伝えたいことがあります。

あの日、万博で見上げた大屋根リングの向こうには、どこまでも高く、青い空が広がっていました。あの巨大なリングは、単なる建築物ではなく、「開かれた未来」を鮮やかに際立たせるための「窓」だったのです。これから進む道は、パビリオンの展示のようにワクワクすることはばかりではないかもしれません。時には、予測不可能な困難や、正解のない問いに立ち止まることもあるでしょう。

しかし、万博のテーマであった「いのち輝く未来社会のデザイン」、そのデザインを描く筆を握っているのは、



他の誰でもない、皆さん一人ひとりです。これからは人生というキャンパスに向き合い、その手に握った筆で、自分だけの未来をデザインしていくのです。たとえ技術がどれほど進歩し、社会が便利になっても、最後に未来を動かすのは、常に人間の「想い」です。誰かを幸せにしたいという優しさ、新しいことに挑戦する勇気、そして、あの日感じた「世界はこんなにも素晴らしい」という純粋な感動。それこそが、これからの時代を生きる確かな道標となります。皆さんの持つ可能性は、あの大屋根リングを遥かに超えて、世界へと繋がっています。

これから歩む人生では、水野中学校での学びを礎に、一人一人が、校歌に歌われているように、志を高く掲げ、友との絆を固く結び、たゆみなく身体を鍛え、幸せな人生を歩んでいくことを願います。

結びになりましたが、保護者の皆様には、この3年間、本校の教育活動に深いご理解と温かいご支援をいただきました。お陰様で本日、義務教育9年間の締めくくりとなる中学校の全課程を終え、無事卒業の日を迎えられましたことに、教職員を代表して心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん、3年間ともに過ごせたことを大変嬉しく思います。水野中学校は、いつまでも皆さんの「ふるさと」です。皆さんの歩む道が、そして創り出す未来が、光り輝くものであることを心から願い、式辞いたします。

令和 8年 3月 6日 瀬戸市立水野中学校長 松岡 辰也

卒業生を送る会

3月2日(月)、生徒会執行部と1・2年生が企画・運営を担う「卒業生を送る会」が開催されました。卒業生への感謝の気持ちや卒業後の応援エールが伝わる会では、ダンスや合唱、ハンドベルなど、在校生からの気持ちのこもった演出内容でした。特にダンスは20年間続いてきた伝統を受け継ぎ、今年度は、新たな形で2年生のトップリーダーが演技構成を考え、2ヶ月ほどかけて練習を重ねてきました。今できることを精一杯にやる気持ちを大切に作り組んだことが、すばらしい演出につながりました。



また、心をひとつにした歌声は、想いとともによりしっかりと卒業生に届いたことでしょう。最後に卒業生から在校生へメッセージと歌が贈られました。学年全員の気持ちのこもった合唱は、「合唱の水野」の伝統を感じるすばらしいハーモニーであり、在校生が、その伝統をしっかりと受け継いでくれると感じました。



会の演出をさらに盛り上げたのは、3年生教職員からの贈りものでした。水中らしい卒業生を送る会となりました。

